

# 「株式会社 姫路シティ FM21」

## 第45回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成23年9月17日(土曜日) 午後1時30分～午後3時15分

2. 開催場所 イーグレひめじ 会議室

3. 出席状況

1) 委員総数 11名

2) 出席委員数 8名

3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)

有馬 妙子	岩成 孝	大谷 昭仁	鎌田賢太郎
岸田 直美	衣笠 愛之	土井 亮祐	柳谷 郁子

4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

井上 重義	梅宮 功	宮本 節子
-------	------	-------

5) 会社側出席者氏名

白井 正敏	(専務取締役 放送局長)
黒田 俊雄	(常務取締役 営業部長)
小幡 博	(営業企画 課長 兼 放送総務 課長)
小林 寛幸	(放送総務部編成制作担当)

4. 議題

(1) 放送局長挨拶

東日本大震災や台風12号などもあり、災害の多い1年である。先般の台風と集中豪雨では、FMゲンキにおいても緊急放送などの取り組みを実施した。

8月2日には記念式典を実施したが、200名を超える人に参加していただいた。

黒田官兵衛については、11月に講演と講談会を実施することになっている。

(2) 資料説明

配布資料をもとに、説明を実施した。

- ・ 前回の番組審議会からの実施事項
- ・ 今後の実施事項、検討事項
- ・ 開局10周年記念式典 ビデオ視聴

### (3) 意見交換

- 委員 防災放送の内容について。どういった文言で伝えたのか。姫路市民にはエリアメールが届いたが、そこにFMゲンキを聴くようにとの文言を付け加えられないか。
- 川の水位について。緊迫感がない。ラジオを聴いていても緊迫感はない。恐怖感や緊迫感を与えるような文言を発信することを考えていけないといけな。リスナーに緊迫感を与えることはできないか。香寺でも放送を流していたが避難をした人が少なかったそうだ。危機意識が薄いと感  
じる。
- 局長 ラジオはタイムリーに情報提供ができるという利点がある。今回も、市の危機管理室より情報を入手しそれを発信した。市は多方面に伝達できるしくみが十分でなかったと反省点にあげられているようだ。今後、専門の担当者をおいてやっていくということなので、改善を期待したい。
- 委員からの指摘について。避難勧告がだされても、なかなか伝達されない。東日本大震災においても、津波の避難指示が出たにもかかわらず、かつ聞いているにも関わらず避難した人は少なかったと聞いている。あのような大災害でもすぐ行動に移す人とそうでない人がいる。日ごろからの防災意識を持たないと、情報を聞いてもうごかない。放送局だけの問題ではなく、市民全体がそのような意識を持たないといけな。
- 市からの情報がベースではあるが、ラジオクラブの会員から情報提供を得るなどということも考えていきたい。
- 委員長 実際に体験しないと想像できない。テレビの台風の情報などはリポーターが風に飛ばされそうになりながらやっている。
- 委員 FMゲンキを聞いたときは淡々と放送していた。
- 委員長 逆にパニックを煽るということになってもいけない。
- 局長 市からは、災害対策本部には情報があつまるが、それを入手するためには我々が行かないといけなといわれている。
- 委員長 それをやろうと思ったら、スタッフの人数の問題もでてくるのではないか。一人が24時間勤務になるような状況だが。
- 課長 姫路市もいろいろ言われているようだが、そこは反省されているようで

ある。

委員長 確実な情報が大切である。FMゲンキが独自で入手した情報を流すということは難しいのか？

担当 市からの情報は公式な物なのでしっかりしているが、リスナーからの情報を放送するという部分については難しい面がある。逃げるか逃げないかは、それぞれの人の判断になってしまうが、局としてはそのために必要な情報を可能な限り提供するというスタンスになると思う。

台風12号については、リスナーの情報も一部取り上げた。例えば、「市川橋のあたりが冠水している」という情報は、仮に冠水していなかったとしても、注意喚起や啓発という面では必要なものである。こういったものは、リスナーからの情報として提供しても問題がないと思われる。逆に、「生野ダムが放水している」というような情報については、影響度が大きいのでしっかり裏を取って放送しないとイケない。

課長 地域の自治会さんを通じて、今からの避難よりも2階への避難などを呼びかけたとも聞いている。避難中に被災するという可能性もある。

委員長 事態がどう動いているかわからない。

委員 各消防署がFMゲンキに情報提供すれば良い。

課長 それは難しい。

委員 なにが難しいのか？

課長 メディアはゲンキだけではないという話になる。

委員 今回は各地域によって状況がことなる。危機管理室に問い合わせても返事がもらえない。実際、現地では大きな通りは行政や警察が管理しているが、中の道については、聞いても対応してもらえない。私のところは船場川だが、水が橋げたにあたると道路にあふれてくる。

一番お願いしたいのは、マナー。車で走り抜ける人が多い。せっかく水を防ごうとしているのに、スピードを出して走り抜けられると、水が家に向かって押し寄せられていく。自分が濡れるのは良いが、50cmぐらいの波ができる。地域で車を止めてほしいといわれても、対応できない。「冠水している場所を走る車はスピードを緩めてほしい」というような

啓発の部分をラジオには期待したい。

委員 今回一番正確だったのは消防団だった。例えば消防団長とホットラインを築いて、情報提供を求められるようになれば良いのではないかと。情報収集について、姫路市のホームページは使えなかった。市は情報発信の義務がある。それが滞らなかったFMゲンキはよかったと思う。

危機レベルが高くなったら、市からFMゲンキに人がやってきてもよいのではないかと。また、夢前町では停電が起こった。そうするとパソコンから情報入手が不可能になる。その場合はラジオしかないが夢前町では入りにくい。なんとか中継局を考えてもらうことはできないだろうか。防災無線も停電になったら聞けない。山間部においてもラジオは貴重な情報手段である。先日紹介されていた危機管理室からの放送装置は使わなかったのか？

担当 今回は使用していない。緊急放送装置はFMゲンキ側に人がいない場合に使用する。気象警報発表後、スタッフがつめている状態であったので、危機管理室からは電話等で情報提供をいただければ、いつでも放送ができた。

委員 危機管理室からは市内の情報は見れるのか？それがFMゲンキでも見ることができたら良いが。

担当 防災センターの屋上にはカメラがあり、また各消防車からも電送装置があるという話は聞いたことがある。加古川などは、ケーブルテレビ局が河川や海岸にカメラを設置して、映像を提供しているようである。ケーブルテレビはすでにインフラをもっているため、姫路でもあればいいのにはと思う。

局長 色々手段はあるが、佐用は大災害のあと各戸にラジオを配布して、NHKや行政情報を聴けるようにしている。FMゲンキも3chできける。そのような仕組みは行政が対応すればできるが、なかなか大変なことである。公的な機関から情報伝達をする手段としては、合併町については防災無線があるので、それが活用されるべきである。

委員 防災無線は雨音で聴こえない。ケーブルテレビも線が切れたのか不具合があったのかで、見ることができなくなった。

局長 その2つをカバーするとなるとFMゲンキしかないが、なかなか限界があるようにも思える。個人的にもっと活用をお願いしたいのは、町内会の放

送である。地域のことは地域の人が一番知っているの、そこからの情報発信をお願いしたいところである。役割分担をしていかないと、いけないと思う。仕組みづくりが大切。

委員 官民一体の危機管理と情報提供を考えないといけない。そこがあやふやである。灘地域でも放送があったが、避難所に来たのは3人だけだったようだ。天変地異、何が起こるかわからないので、官民一体で危機管理と情報ネットを作っていないといけない。FMゲンキも遠慮せずにどんどん市に働きかけて行けば良い。市民からすれば、姫路市からFMゲンキとWINKに情報が流れているというのは当たり前だと思っている。そこをしっかりとやっていただくように働きかけていくことが大切である。

局長 今回の件をふまえて、市とも話し合いの場を設けたい。すでに震災を受けて1回実施し、停電時のガソリン入手の問題や電話回線切断時の情報提供方法について申し合わせを行っている。

委員長 放送局の使命としても重要である。

委員 テレビをみていたら避難所が映っていたが、そういったところで放送を流したのか？

担当 姫路市内の拠点となる避難所については、FMゲンキを受信するための設備が導入されている。

委員 あれだけ集まっている時だからこそ、家のことも心配であるし、非難されている人取材することで、得ることができる情報もあるのではないか。ここでの会議の内容や市との協議においても、進むものは進むし、そうでないものもある。避難している人の声のほうが大きい。豊岡や加古川、丹波など身近な地域で被災経験があるところもある。「川の水が橋げたまで1 mぐらいだ」という情報もいいのだが、「それを超えたらどうなるか？」ということ流すべき。台風が近づいてきている中での前の段階で伝える必要がある。市民はそれが知りたいはず。「危険です、避難して下さい」だけではうごかない。「決壊したらどないなるねん？」という所まで伝えないと、僕は動かない。

局長 床上、床下浸水の被害もでていますが市川などが決壊したものではない。用水路や小河川があふれてしまったから発生したものである。今回の雨は時間雨量で80mmだったようだ。もう少し雨が降れば、被害はもっと拡大していた可能性がある。避難所での受信設備については、調査が必要。

委員 昨日も警報が出ていた。学生はラジオよりもインターネットが身近である。FMゲンキから災害情報が流れているということを知らない学生も多い。疑問がある。FMゲンキのツイッターのフォロワー数がどれぐらいあるのか。警報が出たというときに、僕はそれをリツイートしていたが、中には見るだけという人もいる。しかし、その人もツイッターのフォロワーをしてくれる人がいるはずなので、リツイート願いを含めたほうがいいのではないか。

担当 FMゲンキで災害時に伝えている内容の9割は市民のみなさんも簡単に入手できるものである。放送やネットでも積極的にPRしているが、ひめじ防災メール便やひょうご防災ネットなどである。それらをFMゲンキが引用させていただいている。フォロワーは1926人である。姫路の一番オフィシャルな情報元は「姫路防災WEB」と危機管理室が新たにはじめた「ひよこむ」だ。FMゲンキとしては、これらのサービスをまさに情報が必要とされている局面でPRしていくことが重要であると考えている。メディアは今その瞬間に必要とされている情報をどう発信していくか？ということが大切である。そういう部分での啓発はとても大切。FMゲンキと危機管理室と市民と3者がどのような情報を欲しているかというのは、なかなか分かり合えていない面もあると思う。それは実践をふまえて考えていかなければいけない。東日本大震災を踏まえて、市にお願いをしにいったあと、情報提供についてはかなり改善された。さらに台風12号のあと、先日の警報時には一晩で6回以上電話がかかってきた。具体的な情報という面では、CATVなどはハザードマップを画面に出すのが一番注意喚起しやすい。市川が決壊した場合、どこそこ町は2m浸水するというのを伝えていかなければいけないが、ラジオはそれをどのように言語化していくか研究が必要。東校区に避難勧告が出ていると伝えても、「うちは東だが川からは離れている」と考える人がほとんど。でも、東校区●●町は浸水の恐れがありますよと伝えたら、危機意識を持ってもらうことができるはず。

委員長 防災のFMゲンキというイメージの浸透度合いは？

担当 ネットに関して言えば、検索すると思う。

委員 姫路のラジオ局と表記しているが「姫路の防災ラジオ局」としたらどうか？

担当 それも良いとは思いますが、イメージが固定化されないか心配。「万が一の時は聞いて下さい」といえば「万が一じゃなければ聞かなくてよいのか」という……。今回FMゲンキに気づいて下さった方は多いとおもう。ネ

ット上で広がっていく中で、評価されていると感じる。

委員 防災放送にあたって残業費用など人件費はどうするのか？姫路市は負担してくれるのか？

担当 それは無理。数日であれば問題ないが、長期間にわたると重たくなってくる。今、東北の各局はそこが一番苦勞されている。災害放送局になれば原則広告放送が出来ない。街も被災しているから民間企業からの出稿も激減する。

委員 そこはつめておいたほうがよいのではないのか？

担当 先日の申し入れのさいに、災害放送局になったらそれ相応分はお願いしますと伝えている。

委員長 電源の問題について。停電したらどのぐらいいけるのか？

課長 イーグレの発電機が6時間分ある。その後は自社の発電機。今までは2台並列だったが、1日しか持たない。今回あらたにもう1セット購入して、交互運用できるように努める予定である。

委員長 あとはガソリンだけの問題か？

課長 そこについては、姫路市にもお願いしている。

午後3時15分、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成23年10月2日

公表内容 審議の概要

公表方法 自社放送10月2日17時15分～17時58分「GENKI傑作選」内  
事務所据え置き、ホームページ (<http://www.fmgenki.jp>)

以上